

報道関係者各位
プレスリリース

2021年10月

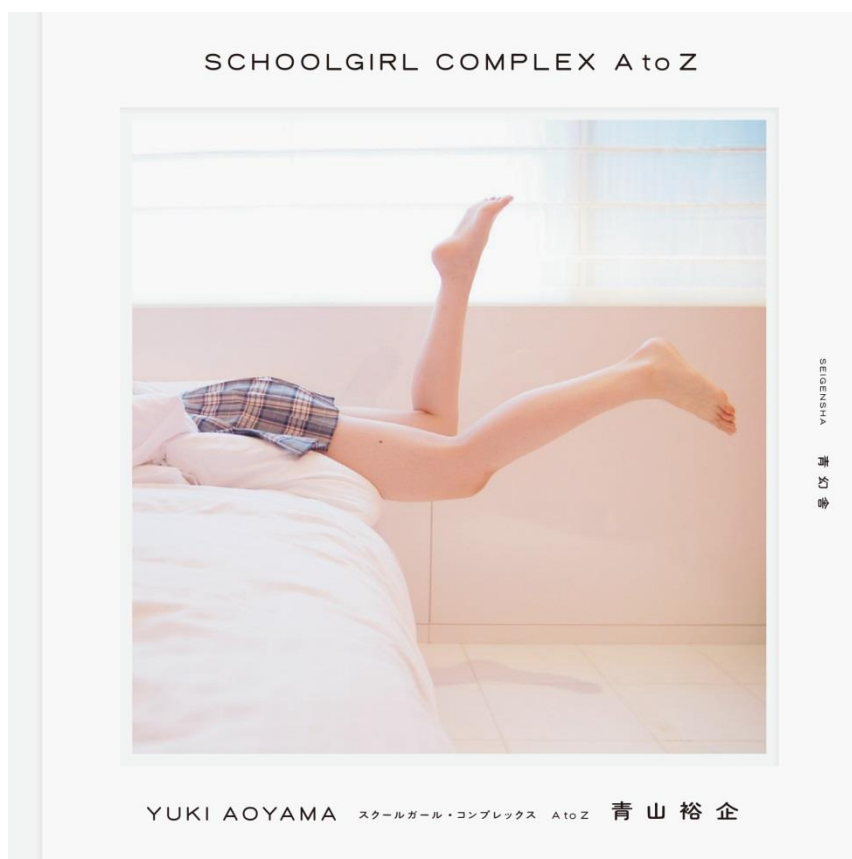
株式会社青幻舎

ジャンル：
写真集

全15シリーズから未発表作を多数含む500点を収録した、著者自選ベスト。

スクールガール コンプレックス
青山裕企写真集「SCHOOLGIRL COMPLEX A to Z」発売

株式会社青幻舎は、写真家 青山裕企が2006年から続けている大ヒット作品『SCHOOLGIRL COMPLEX』シリーズの最新作にして集大成となる写真集「SCHOOLGIRL COMPLEX A to Z」を刊行しました。



著者への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社青幻舎／東京支社
〒135-0047 東京都江東区富岡 2-11-18-8F
TEL 03-6262-3420 ・ FAX 03-6262-3423
広報担当：新庄清二 (shinjo@seigensha.com)

書籍概要

“schoolgirl complex”は、写真家・青山裕企が2006年から制作を続けている作品です。

この作品は思春期の頃に、同級生の女子たちに対して、眼を見るのはもちろんのこと、面と向かって話すことすらできず、今となっては彼女たちの顔も思い出せないほどだという青山が、原体験から生じた妄想を巡らせ、青山にとっての“schoolgirl”たちに対する“complex”をテーマに撮影が始まりました。

透けるシャツ、ソックス、チェックのスカートからのびる足、膝裏、ほくろ、かさぶたなど、画一的な制服を身にまとっていても、女子学生たちの個性の痕跡はたしかに存在している――。

思春期の頃の青山はそれらに対して強い妄想と欲望を抱くと同時に、女性に対して強い恐怖心（コンプレックス）があったといいます。そんな複雑な感情、妄想、欲望を、徹底的に洗練された形で表現し記号化することを目指して、“schoolgirl complex”の基本の表現が生まれました。

シリーズは全部で15を数え、撮影を重ねるごとに青山の妄想は加速していきます。

過ぎ去った思春期を必死に思い出して“package”しようと、緩衝剤やビニールで女子学生を包んでみたり。学校という閉鎖された空間から離れて、その対極にあるような「世界の終わり」を想像させる荒涼とした地を舞台にした“女の子同士の謎めいた関係性”を撮影するため、アイスランドロケを敢行したり……。

果ては「制服を脱いだら、その記号性の内側には何が存在しているのか」という本能的かつ欲望的な関心から、“制服とともに記号性も脱ぎ捨てた女子学生”というシリーズも生まれました。とうとう“schoolgirl”という縛りすらなくなってしまったのです。

15年間に及ぶ撮影の中で、撮影対象が“青山と女の子の距離感”から“女の子同士の関係性”に移り、さらに女の子たちの記号性ではなく個性にも焦点を当てるように変化していきました。その結果、記号性の象徴でもあった「顔を写さない」というルールも取り払われました。

関心の対象の変化と共に青山自身のコンプレックスは次第に解消されていき、本書で15年分の“schoolgirl complex”の全貌（A to Z）をまとめることで、妄想を巡らせ、加速させてきた旅はいったん一区切りとなります。

物語は終焉を迎えるのか、新たな妄想の扉が開くのか――。

これからも妄想の世界の“schoolgirl”から目が離せません。

書誌情報

発売:2021年9月末
書名:SCHOOLGIRL COMPLEX A to Z
著者:青山裕企

判型:A5変型
総頁:512頁
定価:本体4,500円+税
ISBN978-4-86152-856-9 C0072

著者プロフィール

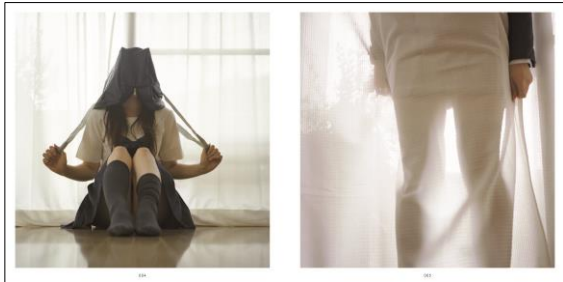
青山 裕企(あおやま・ゆうき)
写真家 | Mr.Portrait

1978年、愛知県名古屋生まれ。2002年、自転車で日本縦断と世界二周の旅の道中で、写真家になることを決意。筑波大学人間学類心理学専攻卒業後、2005年、上京して写真家として独立。2007年、キヤノン写真新世紀優秀賞受賞。ギャラリー・出版レーベル・オンラインコミュニティを運営。現在、東京都在住。
『schoolgirl complex』『ソラーマン』『少女礼讃』など、“日本社会における記号的な存在”をモチーフにしながら、自分自身の思春期観や父親・少女像などを反映させた作品を制作。2009年より写真集などの著書を刊行、現在90冊を超える(翻訳版も多数)。台湾・香港・中国・シンガポール・スペイン・ニューヨークなど、海外で個展やアートフェアなどに多数参加。

“schoolgirl complex” 全 15 シリーズ紹介

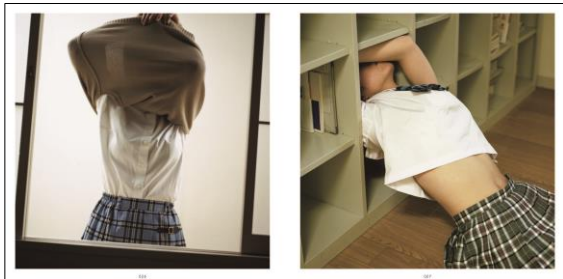
1. undercover (2006-2007)

いわば習作と言ってもいい、まだタイトルが“schoolgirl complex”になる前の作品。



2. schoolgirl complex (2006-2014)

思春期の頃に抱いていた複雑な感情、妄想、欲望を記号化して表現することにより、思春期の儂さや危うさを多面的に表現した作品。



3. schoolgirl scanner [color / monochrome] (2007-2014)

まるで女子学生をスキャンしているかのようなイメージ画像の収集をテーマにした作品。



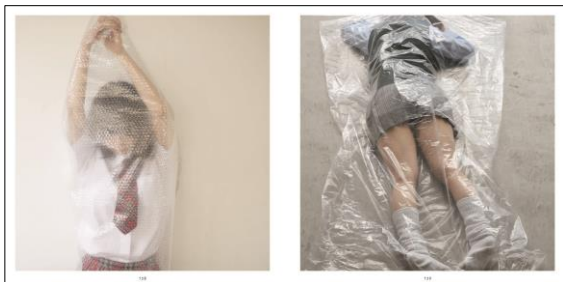
4. pupa (2007-2016)

個性と記号性の境界線を探る、顔をテーマにした作品。



5. [pack・age] (2007-2011)

過ぎ去ってしまった思春期を必死に思い出して、“package”しようとした作品。



6. youthful (2008-2011)

「女の子に対して一喜一憂した、放課後の出来事」をテーマにした作品。



7. cocoon (2009-2015)

これまで撮影してきた青山と女の子との“距離感”ではなく女の子同士の“関係性”を撮影しようと考えた作品。



8. SGC “Q” (2013)

「女の子なんて、分かるわけがない」という気持ちを素直に表現した作品。



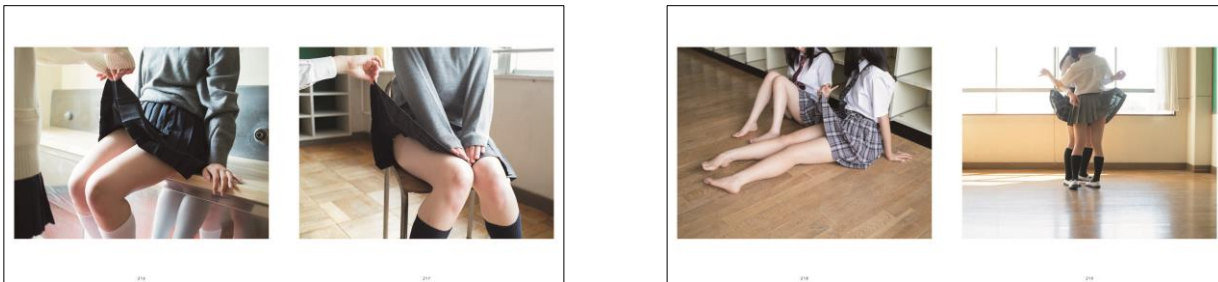
9. 世界の終わりと恋の始まり (2015)

学校から離れて、“世界の終わり”のような荒涼とした地に佇む“女の子同士の謎めいた関係性”をテーマにした作品。



10. かわいいスカートのめくりかた (2016)

女の子のことを知りたい、分かりたいと夢中で撮り続けた、その先に辿り着いた“自由に奔放、無防備”な世界。



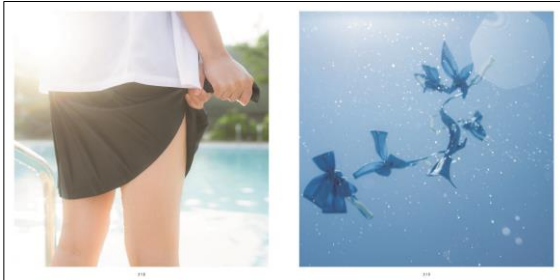
11. 秘密の時間 (2016-2021)

女の子同士のコンプレックス(複雑な感情)を写し出そうと試みた作品。



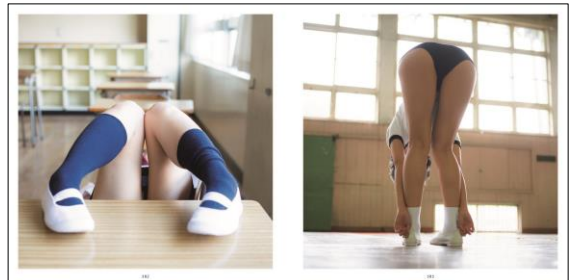
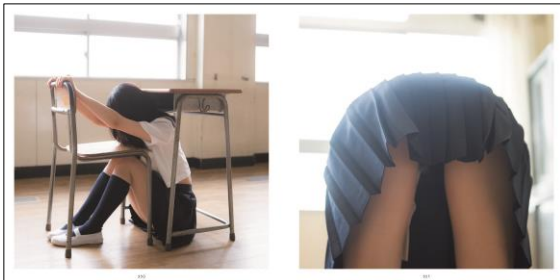
12. スクールガール・ファンタジー (2017-2019)

コンプレックスからファンタジーへ。“schoolgirl complex”を前提から覆すような、突き抜けた想いで撮影した作品。



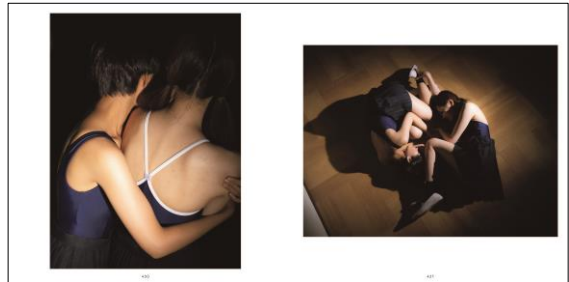
13. schoolgirl complex -少女幻論- (2018-2021)

少女という存在について考え、考えれば考えるほど答えは出ない、という想いを原動力に撮影を続ける作品。



14. 妄想女子校 (2018-2021)

スリルとエロスの関係性をテーマに、夜の女子校を舞台に撮影した作品。



15. ecdysis (2014-2021)

「制服を脱いだら、その記号性の内側には何が存在しているのか」という本能的かつ欲望的な関心をテーマにした作品。

